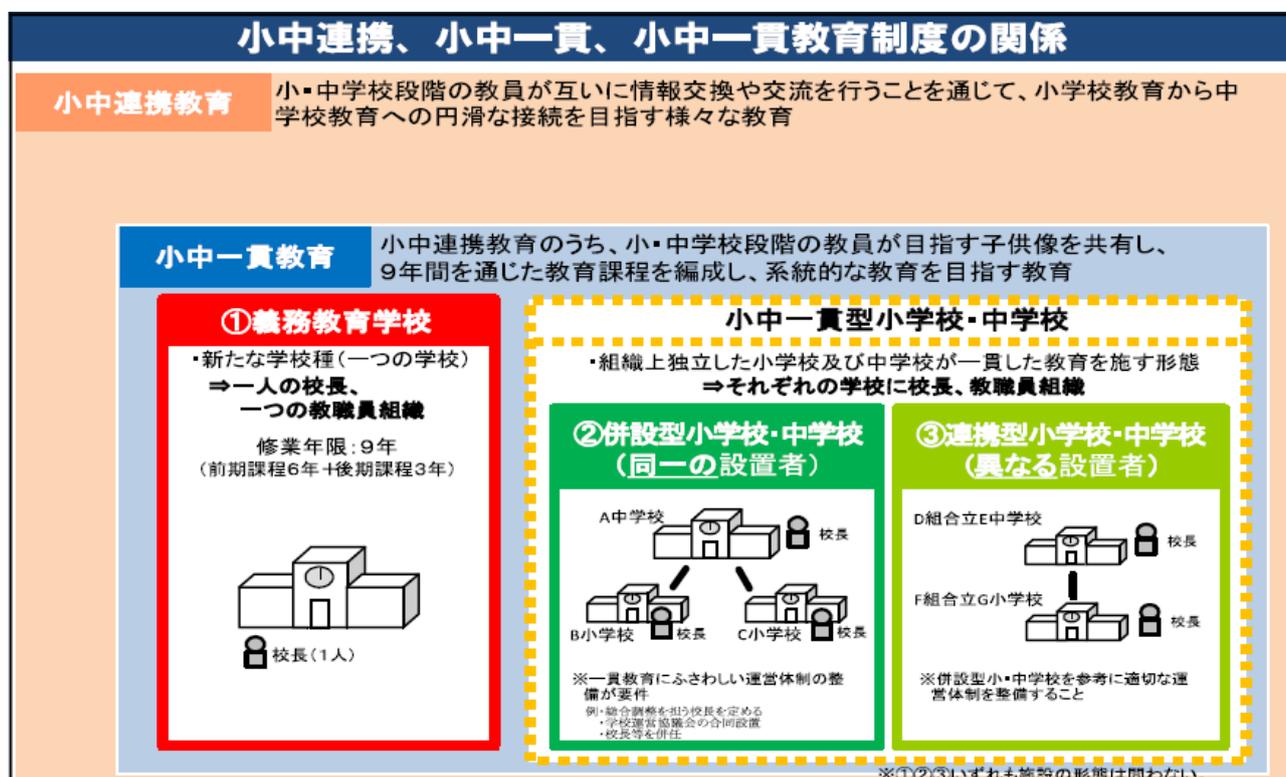


小中一貫教育について

【小中一貫教育とは】

義務教育9年間を見通して、教育課程、指導体制、学校行事、生徒指導などを一貫して行うことを目的としている。



【メリット】

・「中1ギャップ」の緩和

小学校から中学校に上がる際の大きな環境変化による不安やストレス（勉強についていけない、新しい人間関係など）を減らすことができる。慣れた環境や教員、友達の中でスムーズに中学校教育に移行しやすい。

・学びの連続性

9年間を見通したカリキュラムにより、学習内容の重複や抜け漏れを防ぎ、より体系的で深い学びが期待できる。例えば、小学校で学んだことを中学校でさらに発展させるような連携がしやすくなる。「4-3-2」や「5-4」などの区切りが可能。

・きめ細やかな指導

教員が9年間という長いスパンで子どもの成長を見守るため、一人ひとりの個性や発達段階に応じた、より継続的できめ細やかな指導や支援がしやすくなる。

・異学年交流の促進

一つの学校や連携した活動の中で、年上の子が年下の子の面倒を見たり、年下の子が年上の子から学んだりする機会が増え、精神的な発達や社会性を育む効果が期待される。

【課題】

・環境の固定化

9年間同じ環境で過ごすことで、人間関係が固定化されやすくなり、新しい環境での適応力が育ちにくくなったりする場合がある。

・変化のきっかけの減少

小学校と中学校の節目がなくなり、卒業の達成感を感じたり、心機一転したりする機会がなく、子どもたちが変化するきっかけが減少する。

・教職員の負担の増加

小学校と中学校でカリキュラムを調整する必要があり、打合せや研修の機会が増加し、教職員の負担が増加する。